

第 1448 回例会報告

平成28年2月18日(木)晴れ

会長挨拶

会長 御子柴文夫

新未来に果敢に挑戦しよう。

岡谷ロータリークラブによるインターシティーミーティング (IM) へのご出席、お疲れ様でした。かつて諏訪の産業が生糸によって開花したことから生糸に関わる講演等興味深さもありました。

来年は当クラブが担当する番です。次年度ガバナー補佐の大澤会員を中心に有意義な会合になるよう努めましょう。



当会は諏訪湖を取り巻く2市1町を地盤に設立されていることから首長三人から新春卓話を頂きました。卓話の共通話題に 人口減少・少子高齢化・地方創成のお話がありました。地方創成元年と鼓舞されても実態は資金のなくなる今後をどうやって地方が生き抜くかの命題への挑戦です。地方の資本を効率化で温存するため 広域消防や共同で廃棄物焼却場の更新建設など行なわれております。

消防職員は勤め先を市町村から広域消防に転籍となり 各行政体の給与体系差を調整するため少ない方に合わせるための昇給停止など痛みを伴う統合が始まりました。

過去、諏訪はひとつの掛け声で諏訪郡3市2町1村の広域合併の取り組みがなされましたが全て失敗しております。

歳入の減少が現実となった今、改めて合併に取り組む動きもありますが 苦しい中からも将来像を描き出さないと合併に行き着くのは困難に思えます。

例えば下諏訪町の現状は 町税収入 平成20年31億円 平成25年27億円と減少し更に減少となります。

支出は平成20年78億円 平成25年87億円と地方交付金と借金で収入不足を埋め合わせて高齢化対策等のために増加しておりますが限界に達し 今後は必要でも削減する支出になるでしょう。

工業出荷額は平成20年458億円 平成25年295億円減少しております。

人口は2万人から20年後は1万4千人40年後は1万未満との予測が発表されております。他の市町村の歳入歳出や社会状況も同様な傾向になります。

その中で生き抜く地方の創生は困難であってもやり抜く必要があります。

世界中が混沌としてきた今 生き抜くことが最大の課題となりました。

そして、できうる手を差し伸べて平和を維持する必要があります。

IMと同時開催の会員セミナーで 国際ロータリーの各国地域での考え方の違いについて講演を頂きました。

今後を生き抜くために 平和を導くためにロータリーの思想についても意見を推考し共に未来に向けて歩んで生きましょう。

傾出席報告

会員数	38名
出席対象	37名
出席者数	30名
出席率	81.1%
前回修正	84.2%

■ニコニコBOX

3名	3,000円
累計	366,000円
目標額	60万円
達成率	61.0%

■今週のことば

御柱に向けて体の健康に注意しましょう。消防署員の教えを覚えて事故に備えましょう

御子柴文夫



◇幹事報告◇

【理事会報告】

1) 例会予定

			例会内容	担当
3日	木	1450	元下諏訪中学校校長三村昌弘氏講演	青少年
10日	木	1451	会員の健康診断	職業奉仕
3月17日 理事会				
17日	木	1452	笠原書店笠原新太郎氏卓話	クラブ会報
24日	木	1453	長野県環境部水大気環境課本間氏による講演	社会奉仕
31日	木		休会	

2) 4月9日の御柱祭 家族懇親夜間例会・大津中央ロータリークラブ交流会・宮坂伸マ G ガバナー補佐訪問例会については後日詳細お知らせします。予定をあけておいてください

3) 交換留学生受入準備チームを次の通り指名し理事会で決定しました。協力をお願いいたします。

御子柴文夫、西澤賢二、河西達雄、太田淳也、渡邊芳紀、高林一紀、三村昌暉、長崎政直の各氏です。とりあえずチームリーダーを長崎政直会員をお願いいたしました。

【連絡事項】

- 1) 韓国旅行は国際交通が安いことが分かりました。ぜひ参加を。
- 2) 北原さんチョコレートありがとう。



本日の3分間スピーチ

本日は宮坂秀樹会員の「U字溝可変蓋プロジェクト」の話でした。

さすが若いのでいろいろ考えているなーと感心させられました。



第 1448 回例会

救急救命講座

担当 社会奉仕委員会

私たちクラブの会員平均年齢も 66 歳となり、高齢化が進んでいます。そこで今回の例会は下諏訪町の出前講座を利用し、「救急救命講座」をお

願いました。

通常2時間の内容を、特に高齢者のための救急事故予防と心肺蘇生、AED の使用について30分の短縮講座をお願いし、諏訪広域消防下諏訪消防署の涌井啓行さんに卓話と指導をして頂きました。



講演と指導をいただいた涌井啓行さん

下諏訪町において、前年度は救急出動が900件、本年は1400件と増加しているそうです。救急車の到着時間も全国平均が6～8分ですが、下諏訪は4～5分とのこと。それでも、心臓が停止して、何も蘇生措置等行っていなければ、4～5分経過後の生存率が、半分以下になるようです。

私たちは和田峠の清掃や、里山整備に山深く、相当に時間がかかるところに、子供たちと共に活動しているのですが、その時に、この講座が役に立つ…本当は何も起きないことが良いのです。

今後さまざまな場面で、救急救命は必要と感じた例会でした。何かあったら、周りを確認して、肩をたたきながら声をかけ、周りの人に119番に通報してもらい、胸骨圧迫を出来る人間になりたいと感じた例会でした。

